

2021年度成果報告会

太陽光発電主力電源化推進技術開発
／動向調査等
／太陽光発電の技術および
産業・市場動向の調査
太陽光全体の動向調査(リサイクル)

一般社団法人太陽光発電協会(JPEA)
みずほリサーチ&テクノロジーズ株式会社(MHRT)

問い合わせ先
一般社団法人太陽光発電協会
E-mail: m-kameda@jpea.gr.jp
TEL: 03-6268-8544

事業概要

1. 期間

開始 : 2020年7月

終了(予定): 2022年2月

2. 最終目標

- ◆日本国内における現状を調査し、解決すべき課題や制約要因を把握する。
- ◆海外における動向を調査し、先行事例から得られる課題や論点を把握する。
- ◆太陽電池モジュールの適正処理の効率化、円滑化に向けた手法を検討し、実証できる企画を提案する。

3. 成果・進捗概要

- ◆使用済み太陽電池モジュールの排出、収集・運搬および中間処理等に関する現状を把握するため、発電事業者・所有者、撤去工事・排出者、収集・運搬事業者、および中間処理事業者向けのアンケートを実施した。
- ◆IEA PVPS Task12 (PV Sustainability) への参加等を通じ、海外における使用済み太陽電池モジュールの使用後処理に関する情報を収集した。
- ◆国内事業者向けのアンケート結果、使用済み太陽電池モジュールの回収・運搬の効率化等に関する提案事例などを参照し、実証企画の提案、検討に向けた論点の抽出を行った。

調査研究概要

(1) 国内における太陽電池モジュールの適正処理に関する調査 (◎:JPEA、○:MHRT)

①排出実態に関する調査

- ・使用済み太陽電池モジュール排出の実態、収集・運搬等の適正処理に際しての課題の調査



②収集・運搬等に関する調査

- ・使用済み太陽電池モジュールの収集・運搬および中間処理の実態、効率的な処理に向けた課題の調査



(2) 海外における太陽電池モジュールの適正処理に関する調査 (◎:MHRT、○:JPEA)

- ・IEA PVPS Task12 (PV Sustainability) 等への参加
- ・使用済み太陽電池モジュールの発生状況、回収方法、中間処理事業者などの調査
- ・太陽電池モジュールリサイクルに関する動向(政策、技術)などの調査



(3) 太陽電池モジュール適正処理の円滑化に向けた検討(◎:JPEA、○:MHRT)

- ・太陽電池モジュールの回収、運搬の効率化等に関する提案事例等の調査
- ・検討委員会の設置、JPEA適正処理・リサイクル研究会との連携



- ・太陽電池モジュール適正処理の円滑化に向けた将来モデルの検討・提案

国内における太陽電池モジュールの適正処理に関する調査

<国内事業者向けアンケート調査>

日本国内における使用済み太陽電池モジュールの排出、収集・運搬および中間処理等に関する現状、解決すべき課題や制約要因を把握するため、適正処理の段階を4事業種(ステークホルダー)に分けてアンケート調査を実施した。

発電事業者・所有者

*事業者の特性等

- ① 排出・処理の実態
- ② 処理方法選択の主体
- ③ リサイクルへの認識の程度
- ④ 処理事業者選択の過程
(リサイクル業者選択の容易さ)
- ⑤ 処理費用の処理方法選択への影響
- ⑥ 課題

撤去工事者・排出者

*事業者の特性等

- ① 排出・処理の実態
- ② 処理方法選択の主体
- ③ リサイクルへの認識の程度
- ④ 処理事業者選択の過程
(リサイクル業者選択の容易さ)
- ⑤ 処理費用の処理方法選択への影響
- ⑥ 課題

収集・運搬事業者

*事業者の特性等

- ① 収集・運搬の実態
(費用構成要因等を含む)
- ② 手続きの実態
- ③ 費用低減の工夫
- ④ 課題

中間処理事業者

*事業者の特性等

- ① 受入・処理の実態 (処理量・手続きなど)
- ② 処理後の実態 (再資源化物価値など)
- ③ 含有物資情報
- ④ 費用低減の工夫
- ⑤ 課題

国内における太陽電池モジュールの適正処理に関する調査

<国内事業者向けアンケート調査>

アンケート調査先、選定方法および回答数は以下の通り。

調査対象		選定方法	回答数
発電事業者・排出者	大規模発電事業者	大手太陽光発電事業者の中からJPEAが選定、協力依頼	11社
	中小規模発電事業者	FITの事業者情報のリストからピックアップ (50kW未満発電所を10件以上保有の事業者)	29社
撤去事業者・排出者	EPC/O&M事業者	太陽光発電事の事業者やO&Mに係わる団体に協力依頼	25社
	建設事業者等	建設業や解体工事業に係わる団体に協力依頼	
	ハウスメーカー	ハウスメーカーの団体に協力依頼	5社
収集・運搬事業者		廃モジュールの収集・運搬事業者の中からJPEAが選定、協力依頼	18社
中間処理事業者		廃モジュールの中間処理事業者の中からJPEAが選定、協力依頼	21社

国内における太陽電池モジュールの適正処理に関する調査

＜大規模発電事業者向けアンケート調査結果（一部抜粋）＞

○ 太陽電池モジュールの排出実績について

- ・ 回答11事業者中、10事業者が使用済み太陽電池モジュールの排出経験がある。
- ・ 排出事例の回答は18事例で、100枚未満：12事例、100～1,000枚未満：5事例、1,000枚以上：1事例であり、自然災害（落雷、台風等）によるものが15事例であった。
- ・ 1事例はガラスをリサイクルしているが（リユースもあり）、他事例では処理内容が不明。

○ 撤去・排出時等の業者選定、タイミング等について

- ・ 解体・撤去工事業者を選定する際の優先順位は、概ね、「コスト＝品質＞納期＞その他」であった。
- ・ 撤去事由が生じた場合の撤去業者への依頼のタイミングは、「都度の処理依頼」が2事業者で、保管場所がない、発電ロス対策（交換という前提）が理由であった。「ある程度量がまとまってから依頼」という回答は6事業者で、コスト削減、保険との関係などが理由である。
- ・ 「中間処理業者の受入能力を考慮してスケジュールを考える」との回答も2事業者あった。
- ・ 処理業者の受入可能量、対応エリア、実績、概算費用などの情報が欲しい。

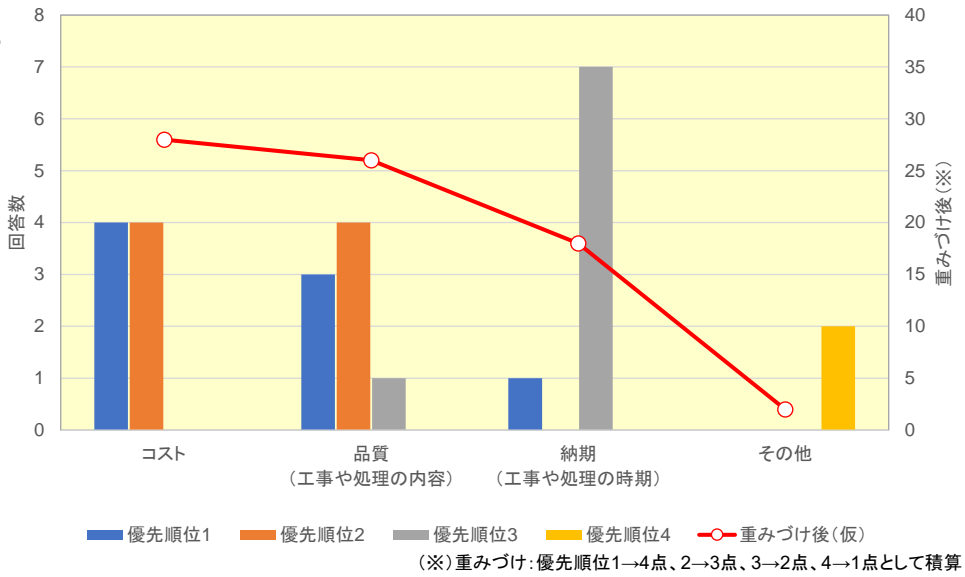
○ 将来の太陽電池モジュール処理について

- ・ リサイクルが主流となるための 優先順位は、概ね「リサイクル処理が安くなること」＞「リサイクルの義務化」＝「リサイクル処理できる事業者が増えること」＞「その他」である。
- ・ FIT制度の買取期間終了後も発電を継続する意向について、半数以上の事業者が、その時点の情勢で判断、不明、という回答で、買取期間終了時に撤去予定は1事業者であった。

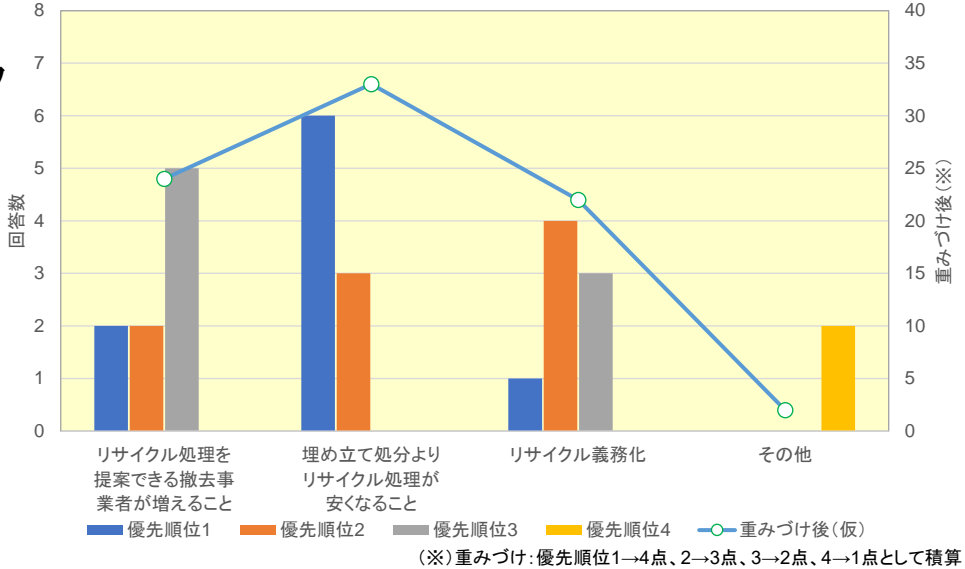
国内における太陽電池モジュールの適正処理に関する調査

<大規模発電事業者向けアンケート調査結果(一部抜粋)>

Q. 解体・撤去工事業者を選定する際の優先順位について、優先するものから順に1～4の番号をご記入ください。



Q. 使用済み太陽電池モジュールの大量排出が予想される2030年代半ば以降において、リサイクルが主流となるために何が重要だと考えますか。重要と考えるものから順に1～4の番号をご記入ください。



国内における太陽電池モジュールの適正処理に関する調査

< 中小規模発電事業者向けアンケート調査結果（一部抜粋）>

○ 太陽電池モジュールの排出実績について

- ・回答29事業者中、使用済み太陽電池モジュールを排出したことがあるのは2事業者で、いずれも、石の落下などによる破損モジュールの交換である。
- ・1事業者は費用面からガラス等をリサイクルしておらず、他の1事業者は処理内容が不明。

○ 撤去・排出時等の業者選定、タイミング等について

- ・解体・撤去工事業者を選定する際の優先順位は、「コスト>品質>納期>その他」となり、「その他」としては、業者の実績や信頼性という回答が多い。
- ・撤去事由が生じた場合の撤去業者への依頼のタイミングは、「都度の処理依頼」が29事業者中22事業者で、保管場所確保が困難、保管コスト削減などが主な理由であった。「ある程度量がまとまってから依頼」という回答が7事業者で、工程効率化などが理由である。
- ・29事業者中21事業者が「中間処理業者の受入能力を考慮してスケジュールを考える」と回答しており、相談しながら進めるなど、確実に処理されることが重要と考えている。
- ・適正処理可能な事業者の一覧、実績、概算費用、処理工程などの情報が必要である。

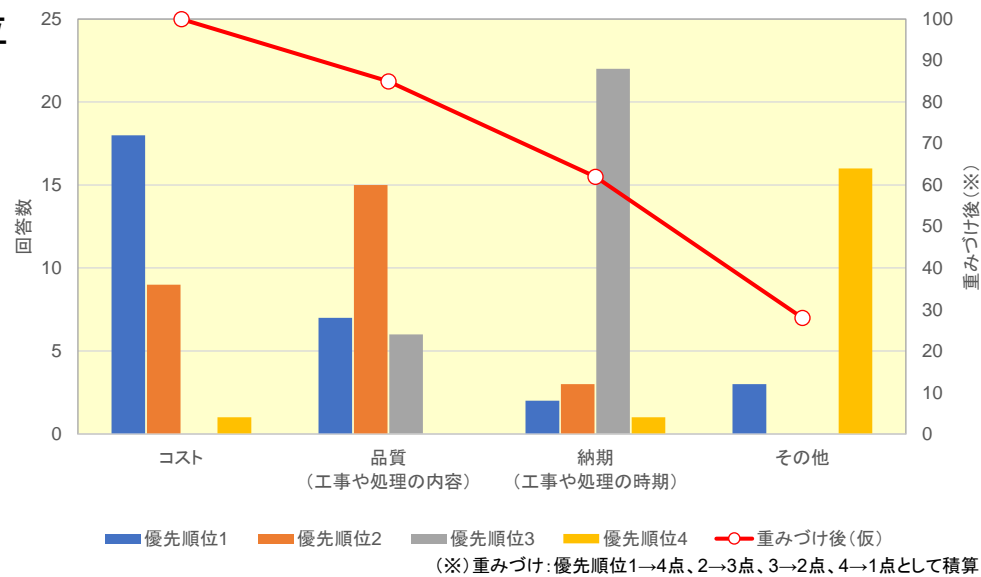
○ 将来の太陽電池モジュール処理について

- ・リサイクルが主流となるための優先順位は、概ね「リサイクル処理が安くなること」=「リサイクル処理できる事業者が増えること」>「リサイクルの義務化」>「その他」である。
- ・FIT制度の買取期間終了後も発電を継続する意向の事業者が半数以上であった。その時点の情勢で判断、という回答も多く、買取期間終了時に撤去予定は3事業者であった。

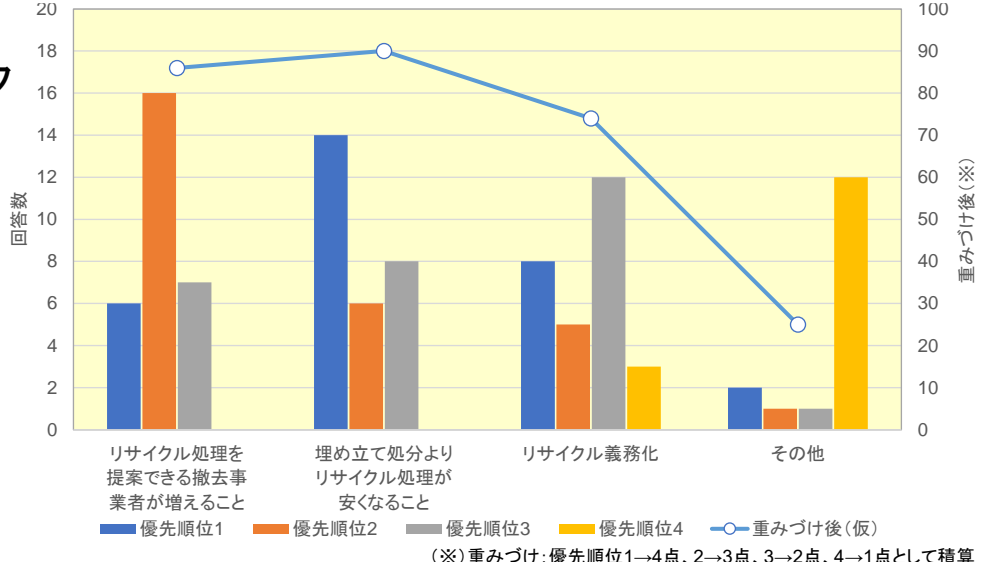
国内における太陽電池モジュールの適正処理に関する調査

< 中小規模発電事業者向けアンケート調査結果（一部抜粋） >

Q. 解体・撤去工事業者を選定する際の優先順位について、優先するものから順に1～4の番号をご記入ください。



Q. 使用済み太陽電池モジュールの大量排出が予想される2030年代半ば以降において、リサイクルが主流となるために何が重要だと考えますか。重要と考えるものから順に1～4の番号をご記入ください。



国内における太陽電池モジュールの適正処理に関する調査

<撤去工事事業者向けアンケート調査結果(一部抜粋)>

○ 太陽電池モジュールの排出実績について

- ・回答25事業者中、太陽電池モジュールを撤去・排出したことがあるのは4事業者であった。
- ・撤去事例として8件の回答があり、リサイクル:4件、リユース・リサイクル及び埋立(混在):1件、埋立:3件であった。埋立とした理由はリサイクル費用の方が高いということであった。

○ 中間処理業者等の選択・依頼について

- ・中間処理業者を選定する際の優先順位は、概ね、「コスト>品質=納期>その他」となり、「その他」として、業者の信頼性、現場からの距離が近い、などが挙げられた。
- ・撤去・排出が生じた場合、中間処理業者への運搬のタイミングは、「都度の処理依頼」が回答21事業者中16事業者で、保管場所がない・確保が難しい、が主な理由であった。「ある程度量がまとまってから依頼」という回答(5件)は、運搬コストの削減が主な理由である。
- ・「中間処理業者の受入能力を考慮してスケジュールを考える」と回答が13件で、適正処理の確保、撤去後保管の回避などが主な理由である。受け入れ能力を考慮しない、という回答(8件)においても、中間処理事業者との相談、などのコメントはあった。
- ・運搬事業者や中間処理事業者は、「自分で探す」という回答が大半であった。
- ・中間処理事業者の処理方法、受入能力、費用などの情報が欲しい、という意見のほか、発注者が指定すべき、情報を一元管理すべき、などの意見もあった。

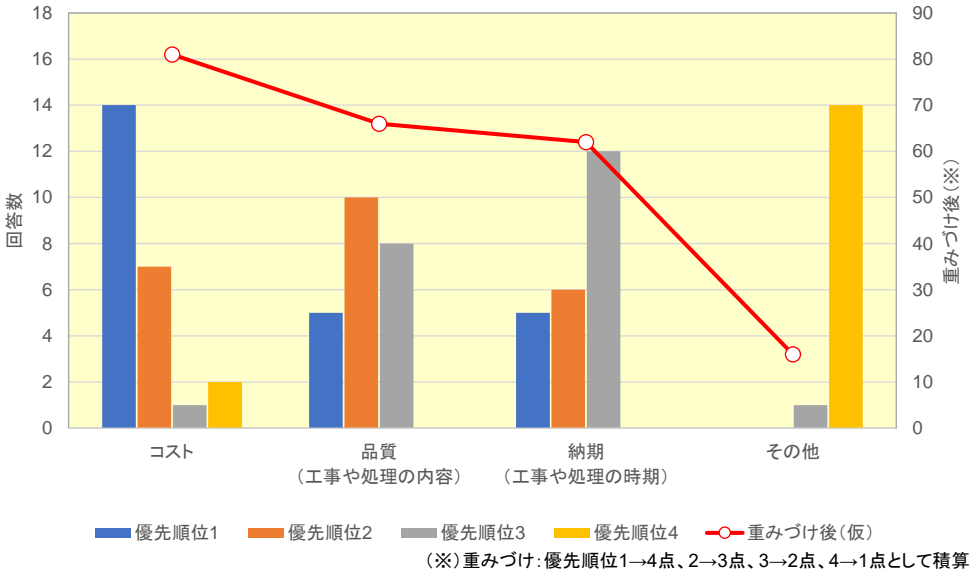
○ 将来の太陽電池モジュール処理について

- ・リサイクルが主流となるための優先順位は、概ね「リサイクル処理できる事業者が増えること」=「リサイクル処理が安くなること」>「リサイクルの義務化」>「その他」である。

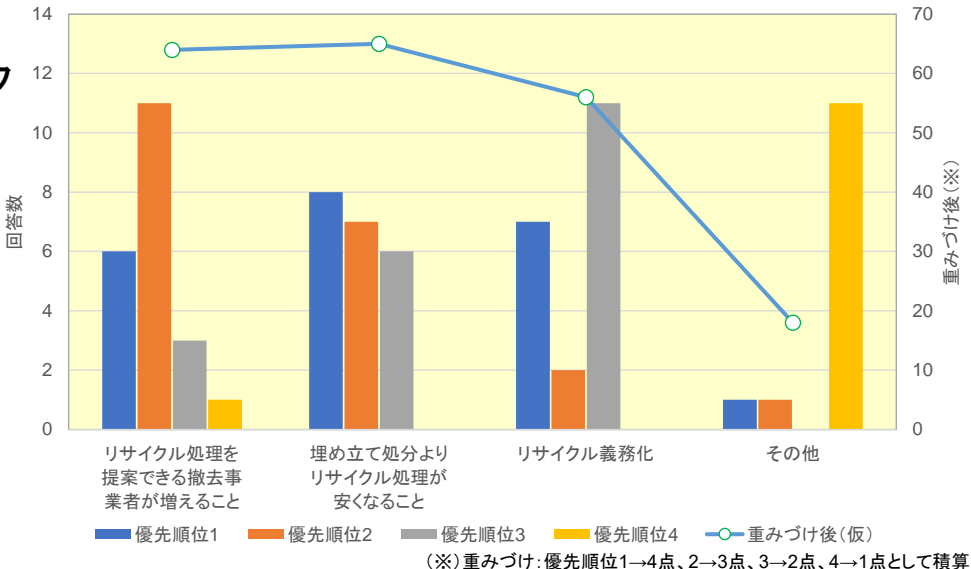
国内における太陽電池モジュールの適正処理に関する調査

< 撤去工事事業者向けアンケート調査結果（一部抜粋） >

Q. 中間処理業者を選定する際の優先順位について、優先するものから順に1～4の番号をご記入ください。



Q. 使用済み太陽電池モジュールの大量排出が予想される2030年代半ば以降において、リサイクルが主流となるために何が重要だと考えますか。重要と考えるものから順に1～4の番号をご記入ください。



国内における太陽電池モジュールの適正処理に関する調査

<ハウスメーカー向けアンケート調査結果(一部抜粋)>

○ 太陽電池モジュールの排出実績について

・回答5事業者中、使用済み太陽電池モジュールを撤去・排出したことがあるのは1事業者であった。リサイクル先が見つからず、埋立処分とし、「管理型処分場」への埋立を指示したとのこと。

○ 中間処理業者等の選択・依頼について

・解体・撤去工事業者を選定する際の優先順位は、概ね、「コスト>品質>納期>その他」であった。

・撤去・排出が生じた場合、中間処理業者への運搬のタイミングは、「都度の処理依頼」という回答が4事業者で、保管場所がない・確保が難しい、が主な理由であった。「ある程度量がまとまってから依頼」という回答(1件)は、運搬コストの削減が理由である。

・「中間処理業者の受入能力を考慮してスケジュールを考える」と回答が3事業者、「受け入れ能力を考慮しない」という回答が2事業者で、後者について、現場優先、少量のため、というコメントがあった。

・運搬事業者は「自分で探す」という回答が多かったが、中間処理事業者は「第三者に照会を依頼」という回答が多い。

○ 将来の太陽電池モジュール処理について

・リサイクルが主流となるための優先順位は、概ね「リサイクル処理できる事業者が増えること」=「リサイクル処理が安くなること」>「リサイクルの義務化」>「その他」である。

国内における太陽電池モジュールの適正処理に関する調査

<収集運搬事業者向けアンケート調査結果(一部抜粋)>

○ 使用済み太陽電池モジュールの収集運搬実績について

- ・保有車両や条件面、有害物質情報などの理由により、断ったことがある事業者がある。
- ・梱包・積載方法は、パレットに積み上げ固定、あるいはバラ積みである。

○ 太陽電池モジュール収集運搬の方法や範囲について

- ・使用する車両の積載可能量別比率に大きな偏りはないが、6～8t車がやや多く、小型車両(2t車、4t車等)を使用する理由として、量が少ない、大型車が入らない、という回答が多い。
- ・収集運搬したモジュールの50～60%(平均)が都道府県の境を越えたもの(2019年度)。
- ・運搬距離(車庫→排出場所→中間処理業者→車庫)の平均は約130km/回(回答6社)。
- ・運搬距離が50km以内の案件の比率は30～35%程度(2019年度:回答6社)。

○ 太陽電池モジュール収集運搬の費用について

- ・モジュール収集運搬費用は、他の産業廃棄物(ガラス、コンクリート等)と同程度という回答が大半である一方、積込の手間や車両の制限(小型車両しか現場に入れない)などによりモジュールの方が高くなる、という回答もあった。
- ・費用を低減させるためには、量に応じた車両の手配、量が集まってからの収集・運搬、処理拠点数の増加(距離の短縮)、一時保管場所の確保などが必要である。

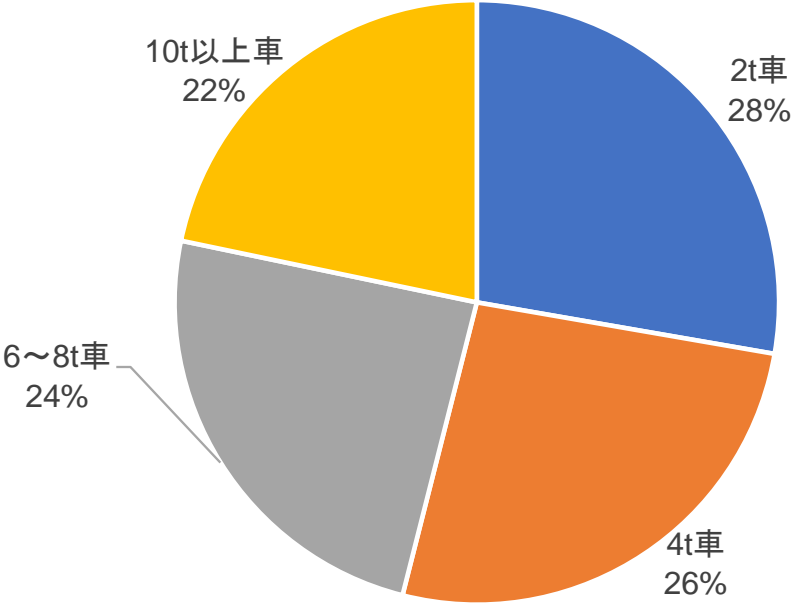
○ 将来の太陽電池モジュール処理について

- ・リサイクルが主流となるための優先順位は、概ね、「リサイクルの義務化」>「リサイクル処理が安くなること」=「リサイクルできる中間処理業者が増えること」>「収集運搬距離が短くなること」>「その他」であった。

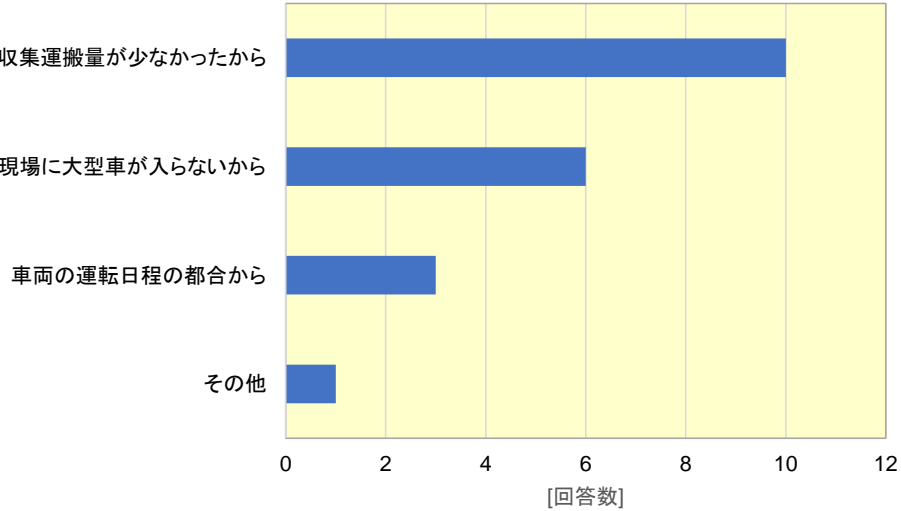
国内における太陽電池モジュールの適正処理に関する調査

<収集運搬事業者向けアンケート調査結果（一部抜粋）>

Q. 太陽電池モジュール収集時に使用した車両について、積載可能量別の使用比率をご回答ください。



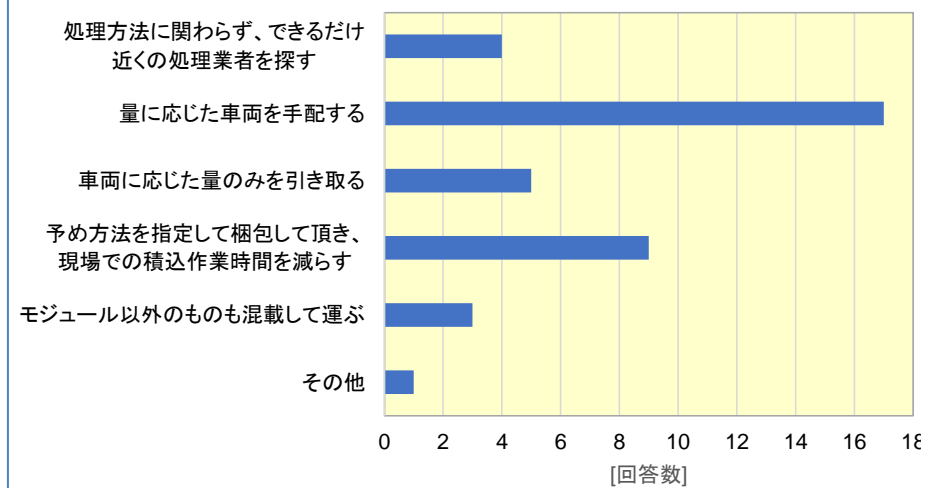
Q. 2t車、4t車等、比較的小型の収集運搬車を使用した理由はなんですか（複数回答可）。



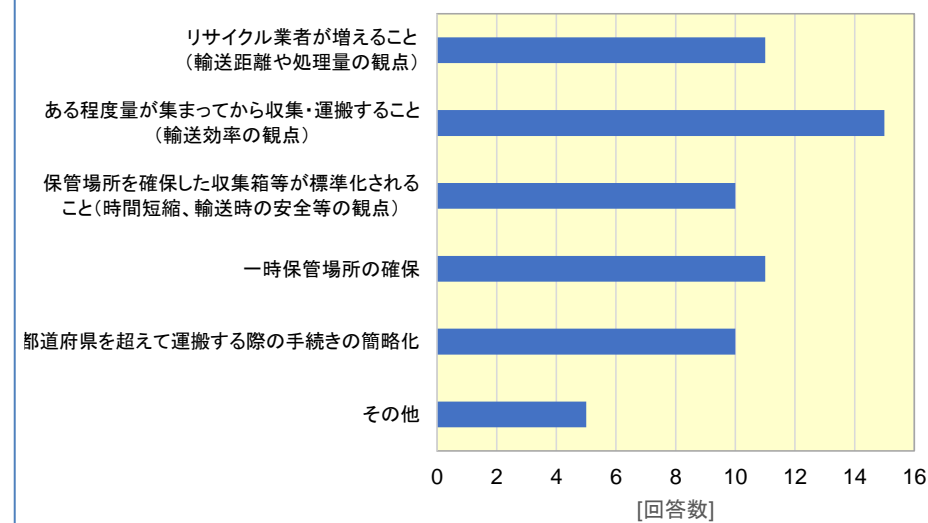
国内における太陽電池モジュールの適正処理に関する調査

<収集運搬事業者向けアンケート調査結果（一部抜粋）>

Q. 収集運搬コストを下げるために、どのような工夫をしていますか（複数回答可）。



Q21. 太陽電池モジュールの収集運搬コストを下げるために、今後望まれる項目として何が重要だと考えますか（複数回答可）。



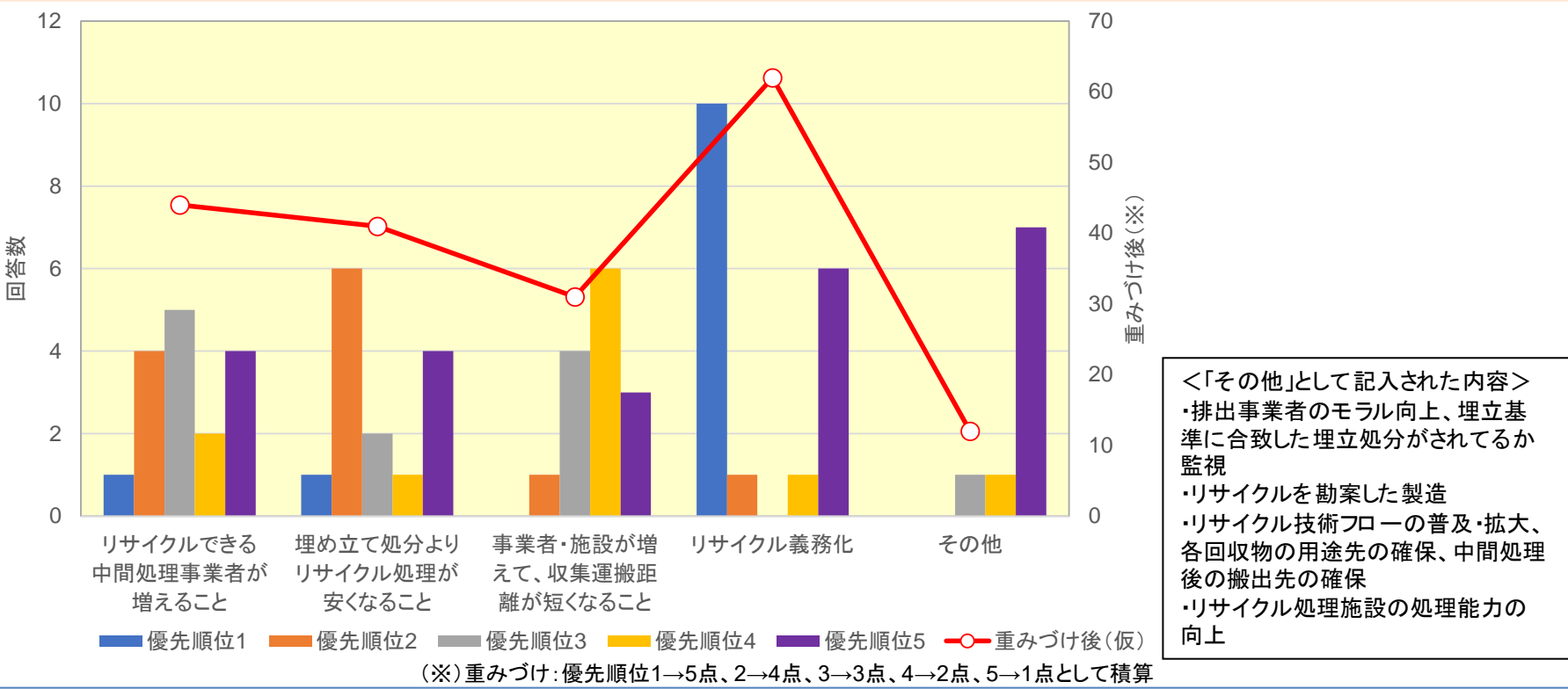
<「その他」として記入された内容>
・太陽電池の収集を廃掃法適用範囲外として一般車両で運搬可とする。

国内における太陽電池モジュールの適正処理に関する調査

<収集運搬事業者向けアンケート調査結果(一部抜粋)>

Q.使用済み太陽電池モジュールの大量排出が予想される2030年代半ば以降において、リサイクルのコストダウンが進み、リサイクルが主流となるために何が重要だと考えますか。重要と考えるものから順に1～5の番号をご記入ください。

左軸)「1～5」を記入した回答、当てはまる項目として「○」がつけられた回答が混在。「1～5」および「○」が記載されていた状況を「回答数」として集計。
右軸)優先順位「1～5」が記されている回答(9件)について、優先順位1は5点、2は4点、3は3点、4は2点、5は1点とし、その点数を合計したもの。



国内における太陽電池モジュールの適正処理に関する調査

<中間処理事業者向けアンケート調査結果(一部抜粋)>

○ 使用済み太陽電池モジュールの受け入れについて

- ・多くの事業者で受け入れ規定があり、約半数の事業者で受け入れを拒否したことがある。

○ 使用済み太陽電池モジュールの受け入れ実績について

- ・撤去工事事業者、電気工事事業者、保守管理事業者からの受け入れが多い。
- ・受け入れたモジュールの45～50%が他の都道府県で発生したもの。

○ 太陽電池モジュール受入の手続き、保管について

- ・受け入れたモジュールの運搬は、35～45%が自社で手配した事業者による。
- ・他都道府県からの受け入れには事前協議が必要となることもあり、所要日数は地域により3～30日と幅がある。
- ・受入後平均保管日数は12日程度であるが、「都度処理」という回答の事業者も多い。
- ・受入後に保管可能な重量は平均で75トン程度(回答16社)。

○ 太陽電池モジュールの処理について

- ・専用処理設備を有する事業者による処理能力は平均で1,200トン/年程度(回答11社)。
- ・多くの事業者で含有物質情報が必要となったことがあり、ガラス・セル中の物質が多い。

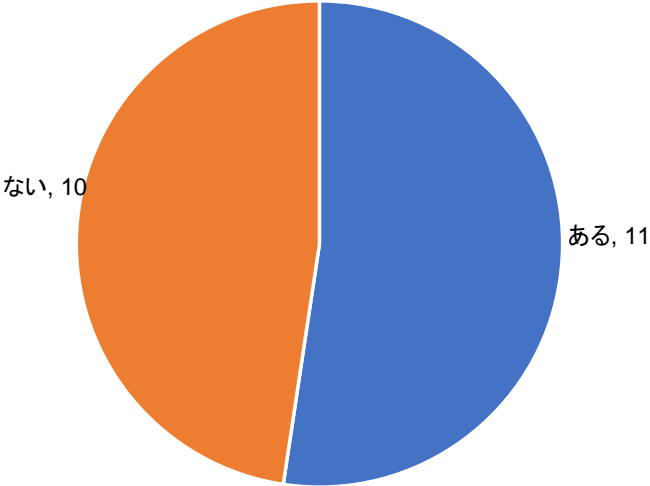
○ 将来の太陽電池モジュール処理について

- ・リサイクルが主流となるための優先順位は、概ね「素材の再利用技術・市場形成等」>「リサイクルの義務化」=「事業者あたりの処理量が増えること」>「新たな技術開発・政策・補助」=「リサイクル処理が安くなること」>「その他」である。

国内における太陽電池モジュールの適正処理に関する調査

< 中間処理事業者向けアンケート調査結果 (一部抜粋) >

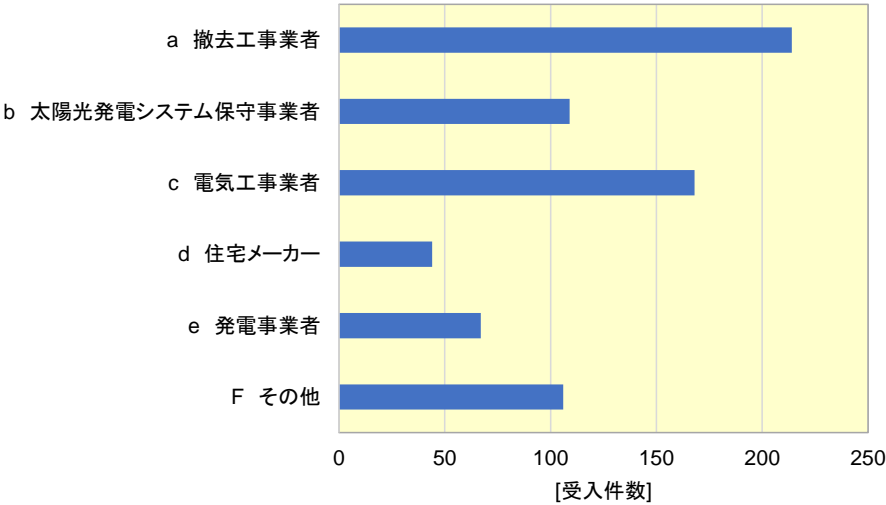
Q. 使用済み太陽電池モジュールの受け入れを拒否したことはありますか。



< 拒否した理由 >

- | | |
|--------------------|----|
| ・著しい変形や破れ | 2件 |
| ・メーカー、型式不明 | 1件 |
| ・処理装置仕様外 (種類、外形等) | 1件 |
| ・取扱い対象外 (太陽電池種) | 5件 |
| ・社内規定以上の有害物質含有 | 1件 |
| ・有害物質含有率不明 (結晶系以外) | 1件 |
| ・県外廃棄物事前協議申請の対応が困難 | 1件 |

Q. 使用済み太陽電池モジュールをどこから受け入れましたか。



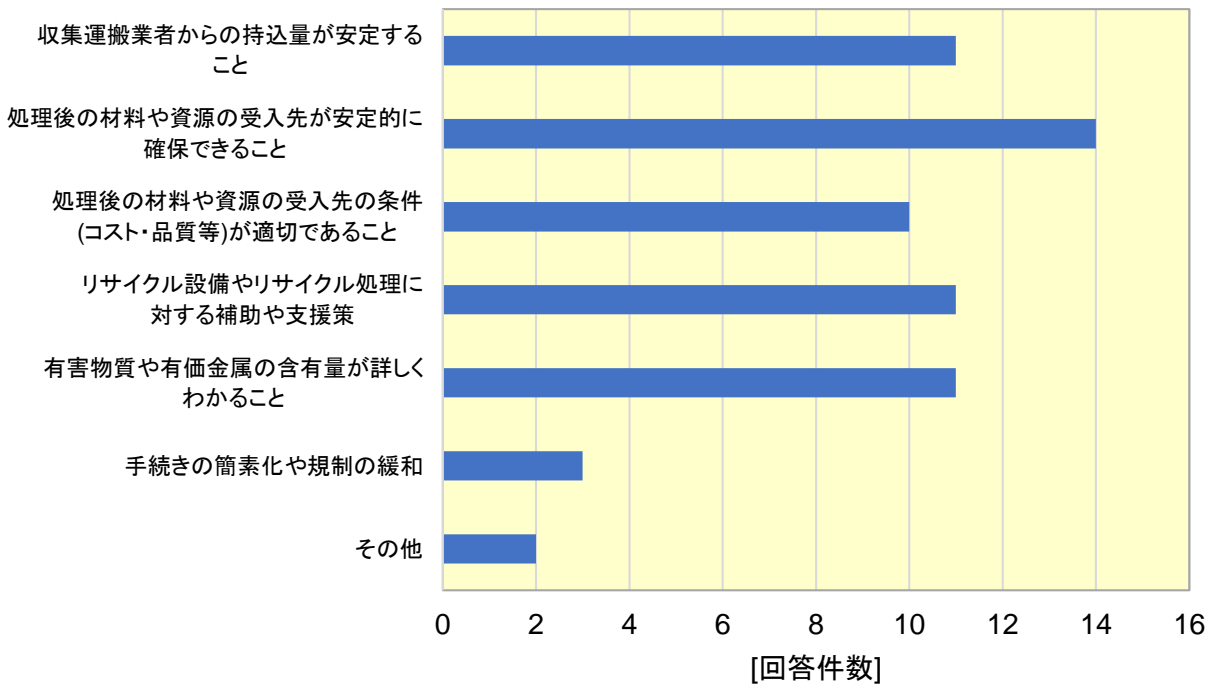
< 「その他」に含まれる受け入れ先 >

- ・産廃、倉庫、運送
- ・太陽光パネルメーカー
- ・同業他社
- ・研究開発機関
- ・収集運搬業者

国内における太陽電池モジュールの適正処理に関する調査

< 中間処理事業者向けアンケート調査結果 (一部抜粋) >

Q.リサイクル処理のコストを下げるために、どのようなことが望ましいと考えますか。

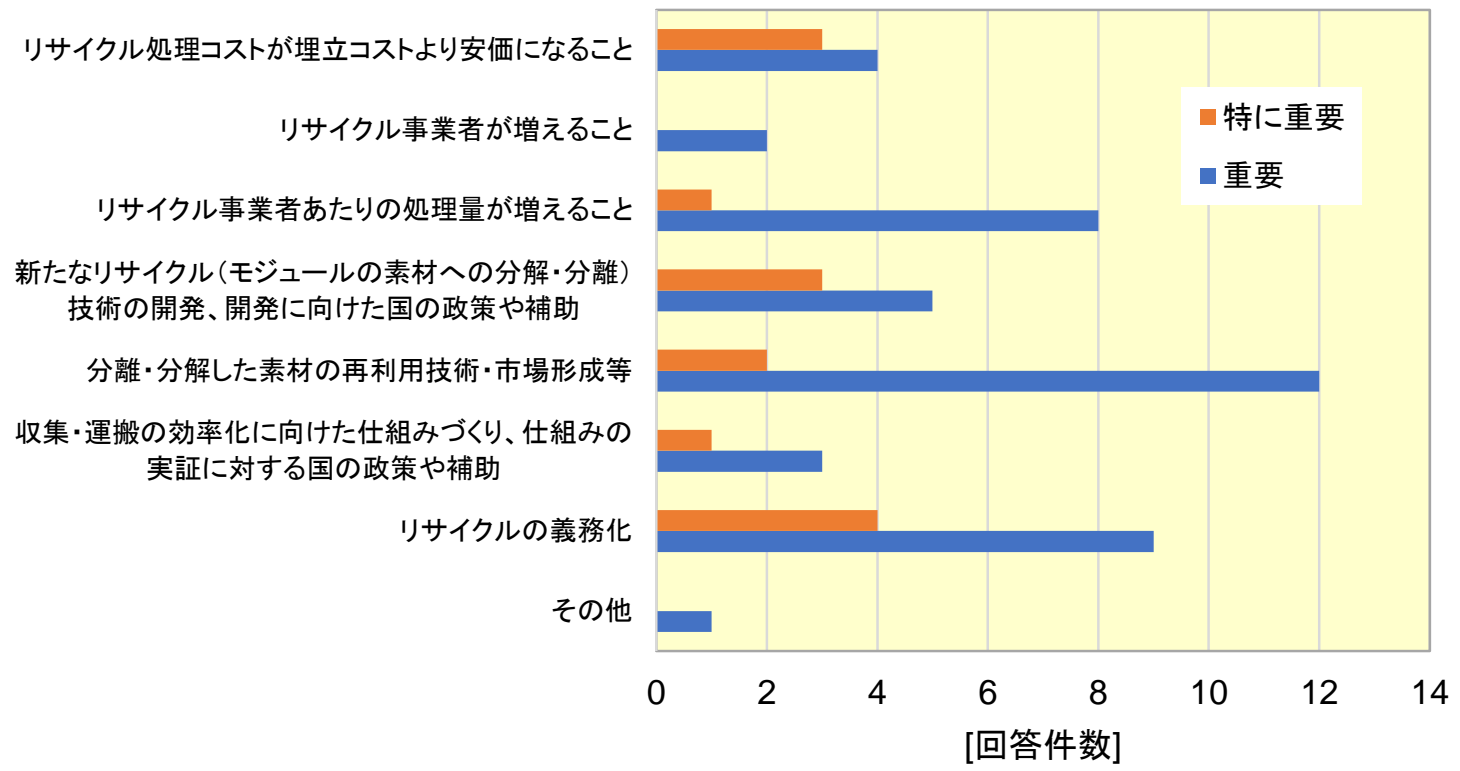


<「その他」に含まれる回答>
・エリアごとに集約施設を設け、輸送コスト・手続きの簡素化
・パネルリサイクル費、輸送費等を一部補助し、不法投棄や埋立を防ぐ
・ガラス売却価格が上がること

国内における太陽電池モジュールの適正処理に関する調査

< 中間処理事業者向けアンケート調査結果 (一部抜粋) >

Q.使用済み太陽電池モジュールの大量排出が予想される2030年代半ば以降において、リサイクルのコストダウンが進み、リサイクルが主流となるために何が重要だと考えますか。



太陽電池モジュール適正処理の円滑化に向けた検討

<アンケート調査から得られた主な知見と課題>

	発電事業者	排出事業者 (撤去工事業者、ハウスメーカー)
リサイクル主流化に重要な点	コスト(埋立並)＞事業者増＝義務化	コスト(埋立並)＝事業者増＞義務化
処理依頼のタイミング	大規模事業者： 「ある程度量がまとまってから依頼」が多数 理由：コスト削減 中小規模事業者： 「都度の処理依頼」が多数 理由：保管場所確保が困難、保管コスト削減	「都度の処理依頼」が多数 理由：保管場所確保が困難 「ある程度量がまとまってから依頼」少数 理由：運搬コストの削減
要望(必要な情報)	処理事業者の一覧、受入可能量、対応エリア、実績、概算費用、処理工程などの情報	処理事業者の処理方法、受入能力、費用などの情報 情報の一元管理化

太陽電池モジュール適正処理の円滑化に向けた検討

<アンケート調査から得られた主な知見と課題>

	収集運搬事業者	中間処理事業者
リサイクル主流化に重要な点	義務化＞事業者増＞コスト（埋立並）	材料利用技術＞義務化＞事業者あたりの処理量増
収集運搬の実態	使用車両：2t車や4t車 理由：量が少ない、現場に大型車が入らない 50%以上が都道府県境を越えたもの	
コスト低減施策（量/収集運搬）	<ul style="list-style-type: none">・量が集まってからの収集運搬・処理拠点数の増加（距離の短縮）・一時保管場所や積替保管場所の確保、・排出事業者と連携した物流・保管スキームの構築・他県の収集運搬における手続きの簡素化・収装箱等の標準化	<ul style="list-style-type: none">・受入量の安定化（エリアごとに集約施設等）・リサイクルへの補助・支援策（Go to recycle）・収集・運搬効率化に向けた回収の仕組み、国の政策・補助・県外搬入手続きの簡素化
コスト低減施策（処理後材料の資源価値）	—	<ul style="list-style-type: none">・受入れ先の確保（受入れ先確保の共同事業）・受入れ価格や品質条件の適正化・利用技術・市場形成への公的補助

太陽電池モジュール適正処理の円滑化に向けた検討

< 提案事例にみる論点と特徴 >

	小規模収集拠点配置による回収ネットワークの構築	排出情報の共有による効率的回収システムの構築
回収システムの概要	小規模な廃棄モジュール収集拠点を分散配置、集中拠点到集積するネットワークを形成し、集中拠点から処理工場に搬送	蓄積された廃棄モジュール情報を共有し、効率的なタイミングで回収し、処理工場に搬送
目 的	<ul style="list-style-type: none">・収集運搬効率化による費用低減・量、事業者の集約化・処理ネットワーク構築によるコスト低減	<ul style="list-style-type: none">・収集運搬効率化による費用低減と量の集約化・入札による処理費等明確化・低減
事業概要	リサイクル事業者が加入するネットワーク形成と加入事業者へのインセンティブ付与	O&M事業者が加入するネットワークと参加収集運搬業者、リサイクル事業者へのインセンティブ付与
事業運営方法	小規模収集システムによる集積運搬 処理内容トラッキング	排出量情報収集システムに基づく収集運搬業者、リサイクル事業者の連携強化
設立・運営費用	実運営時は、リサイクル事業者会員からの会費収入で事業活動	実運営時は、発電量評価支援システムの提供に対する発電事業者・O&M事業者からの会費収入など
発電設備の対象範囲	小規模システム	登録O&M事業者が撤去する案件が対象
発電事業者/排出事業者におけるメリット	排出時におけるネットワーク利用の利便性	発電事業者：発電量評価による廃棄判断 排出事業者：プラットフォーム活用の利便性
収集運搬におけるメリット	小規模排出対象の収集システム	小規模産業用排出対象の収集システム
中間処理におけるメリット	一定量の排出量の確保	排出時期・量予見可能性の向上
法的課題	廃掃法上の課題	廃掃法の範囲内で実施可能

太陽電池モジュール適正処理の円滑化に向けた検討

<実証企画の提案、検討に向けた論点(案)>

リサイクルの促進効果	リサイクルコストの低減 収集運搬の効率化 リサイクルの内容、高度化
リサイクルによる価値の向上	単なる処理費用ではなく、分解後の価値の向上 新たな付加価値:CO ₂ 排出削減、SDGsへの貢献
排出源(太陽光発電規模、用途)に応じたメニュー・パッケージ化	収集運搬経路、範囲 積み込み、梱包方法
業者選定の仕組み	判断基準(コスト、リサイクル率)
事業としての運営方法	参画すべき事業者(プレーヤー) 対象とする太陽光発電および地理的な範囲 安定的な処理量と予見性
法規制への対応	技術や工夫で解決できること 規制等の緩和が必要なこと

ま と め

(1) 国内における太陽電池モジュールの適正処理に関する調査

使用済み太陽電池モジュールの処理の現状を把握するため、発電事業者・所有者、撤去工事・排出者、収集・運搬事業者および中間処理事業者向けのアンケートを実施した。

必要に応じて、追加的なヒアリングも行い、円滑化に向けた手法の検討、実証企画の提案、検討に反映していく。

(2) 海外における太陽電池モジュールの適正処理に関する調査

IEA PVPS Task12 (PV Sustainability) への参加等を通じ、海外における使用済み太陽電池モジュールの使用後処理に関する情報を収集した。

今後も継続的に情報収集を進めていく。調査成果の一部は、IEA PVPSタスク12レポートとしても取り纏めていく。

(3) 太陽電池モジュール適正処理の円滑化に向けた検討

国内事業者向けのアンケート結果や使用済み太陽電池モジュールの回収、運搬の効率化等に関する提案事例などを参照し、実証企画の提案、検討に向けた論点の抽出を行った。

検討委員会を通じたご助言もいただきながら、(1)(2)の調査結果に基づき、円滑化に向けた手法、実証可能な企画を検討していく。